



# 知的障がい者スポーツ と意識改革

Sports for Persons with Intellectual Disability

# 社会問題

知的障がい者を  
とりまく現状

## 政策提案

教職課程に知的障がい者ス  
ポ



Normal Individual  
健全者

### 矢野乙

知的障がい者に健全者が  
もたらす影響

## 問題点解明<調査1>

知的障がい者への  
有無



Intellectual Disability  
知的障がい者

### 矢野I

健全者が持つ偏見を  
スポーツによって解消

---

# 知的障がい者スポーツ をとりまく現状

# 知的障がい者とは？



1. 知的機能に制約があること
2. 適応行動に制約を伴う状態であること
3. 発達期に生じる障がいであること

の3点とされている

## 参考文献

「障害児者の理解と教育の理解と教育・支援 特別支援教育/障害者支援のガイド」  
金子書房、2008年

政策提言

国民が生涯を通じて、  
それぞれが望むかたち  
スポーツを楽しみ、  
幸福を感じられる社会の

目次

第1章	提言の骨子	4
第2章	検証と問題提起	9
第3章	提言	
	学校とスポーツ	16
	生涯スポーツ	23
	競技スポーツ	33
	障害者スポーツ	40
参考文献		45

□ 障害者スポーツ

障害者が幸福を感じながらスポーツを楽しむ社会の形成

日本では、障害者がスポーツを楽しむための環境整備について、十分な支援が行えておらず、日常生活の中でスポーツを楽しむ土壌が形成しきれていない実情がある。障害の種類が多岐に渡る上、プライバシーの問題もあり、障害者の運動・スポーツ参加状況に関するデータは乏しいが、内閣府「障害者施策総合調査」(2008)によると、40.5%の障害者が何らかのスポーツ・文化芸術活動に参加していると回答し、これらの障害者が参加する主なスポーツ活動として卓球(スポーツ・文化芸術活動参加者の12.6%)、水泳(同12.4%)、

また、障害の有無に関わらず、スポーツにおけるノーマライゼーション(障害者と健常者が区別されることなく、社会全体を共にすることが望ましいという理念)の実現が必須である。

環境の不足で、スポーツを楽しむことが難しくなっているという社会  
ーションの一環として指定し、その推進、計画実現に解決に取り組むようになり、この考えから、  
に関する懇親会」が(財)日本障害者と名称を変更し、委員会が設立された。  
今後は、スポーツが障害者の生活の中で楽しむスポーツへと発展していく。また、障害の有無に関わらず、スポーツにおけるノーマライゼーション(障害者と健常者が区別されることなく、社会全体を共にすることが望ましいという理念)の実現が必須である。「障害者基本法」(1993、2004改正)第2条において、障害者とは、「身体障害、知的障害又は精神障害があるため、継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける者」と定義づけられており、本項でも、同様の定義のもと、障害者が幸福を感じながらスポーツを楽しむ社会の形成について、以下2点の提言を行う。

41page

第三章 提言

障害者スポーツの冒頭

障害者スポーツにおける根本的な課題は、障害者がスポーツを楽しむ環境の不足である。具体的には、障害者にスポーツを教えられる指導者の不足、障害者がスポーツを実施できる施設の不足があげられる。

機会  
(指導者と、施設)

提言8 スポーツ指導者制度の改善を通じて、障害者のスポーツ参加機会を拡充すべき

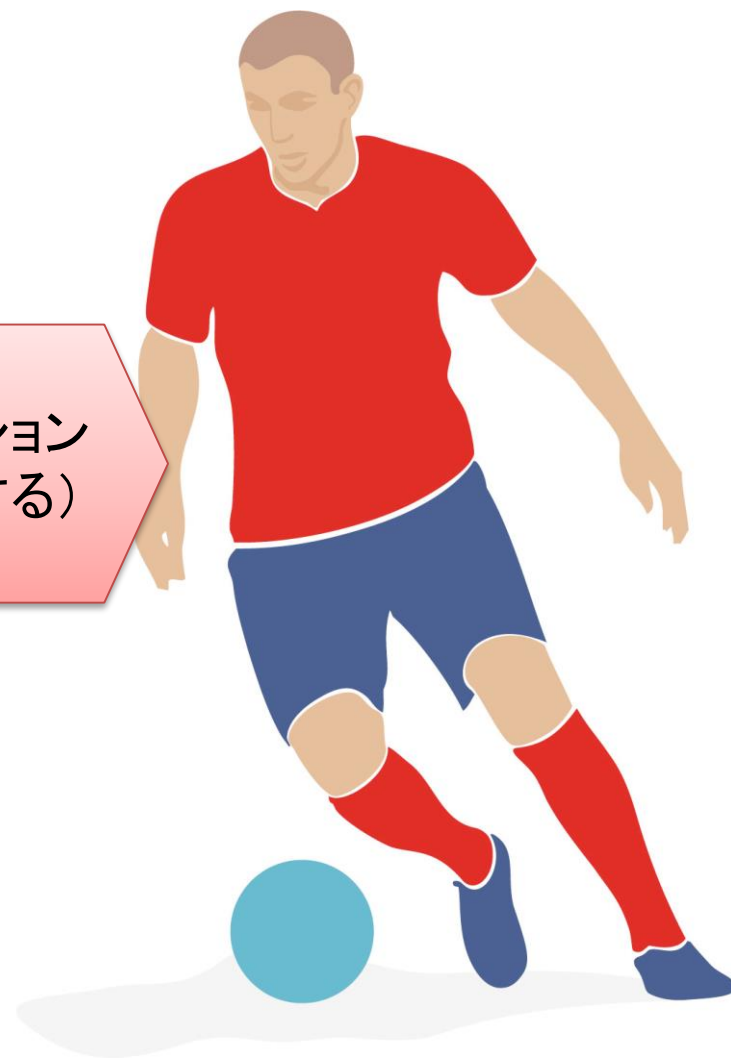
提言9 障害者スポーツセンターのハブ化、他施設の全国ネットワーク化を進めるべき

ノーマライゼーション  
(区別なく共にする)

言及なし



ノーマライゼーション  
(区別なく共にする)





**社会問題**  
知的障がい者を  
とりまく現状

**問題点解明<調査1>**  
知的障がい者への偏見  
の有無

**実験1**

健常者が持つ偏見をスポーツ  
によって解消

**実験2**

知的障がい者に健常者が  
もたらす影響

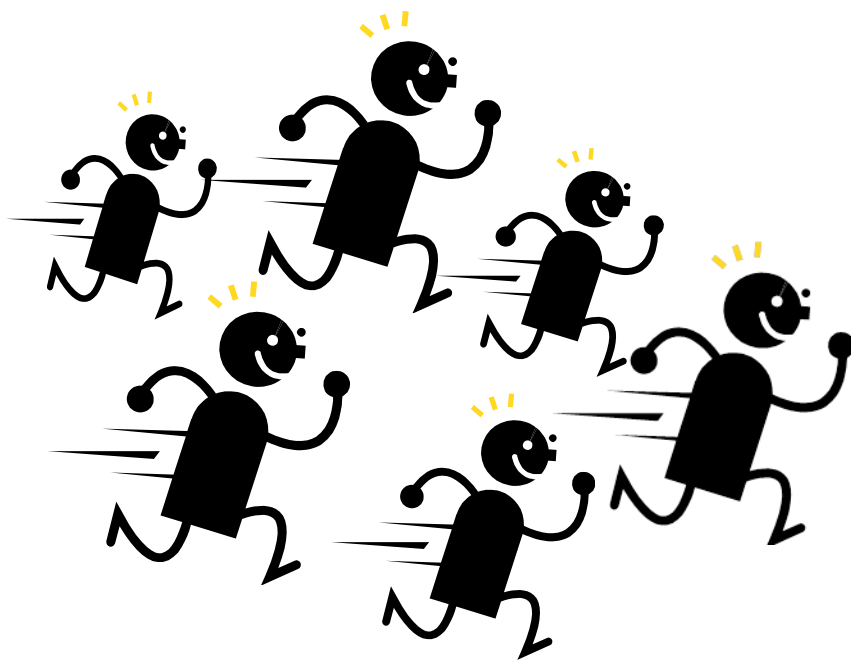
**政策提言**

教職課程に知的障がい者  
スポーツを導入

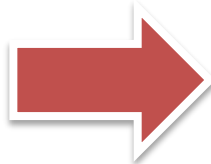
---

健全者の偏見はスポーツを  
通して解消できるか？

# 調査 健常者の偏見はスポーツを通して解消できるか？



SPJメンバー6人



FCTラッソス



特定非営利活動法人

# トラックス

トップページ

NPO法人トラックスについて

スクール&クラブ

指導者派遣

NPOトラックスの活動

サポーター募集



**「走っているの？」**

はじめて参加したお子さんの心の内は  
こんな想いだと思います

私たちは  
「いいよ！思いっきり走っていいんだよ」  
と心で返します

「失敗したら…はずかしいなあ～」  
失敗は「達成感」と「自信」という階段の一段目

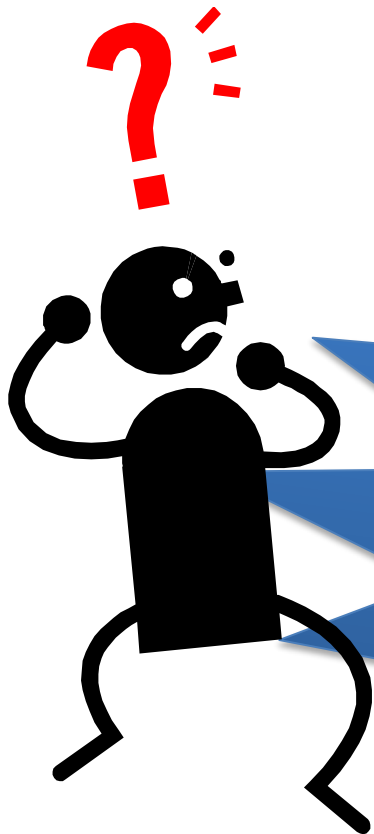
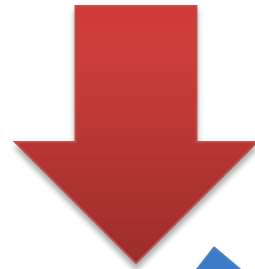
私たちは  
「おいしい！あとちょっと！！」  
と笑顔で返します  
「やったあ！できたよ！」の声と「笑顔」

その時「達成感」と「自信」が  
自分のものになります  
私たちはその瞬間を共に喜び  
「笑顔」のプレゼント交換をしています  
さあ、いっしょにあそぼう！！  
一緒にサッカーしよう！！

## 体験内容

- ・体操
- ・ボールを使った交流
- ・2対2、3対3のミニゲーム
- ・パス練習
- ・ドリブル、シュート

障がい者と関わってから実際に  
偏見があった事に気づいた



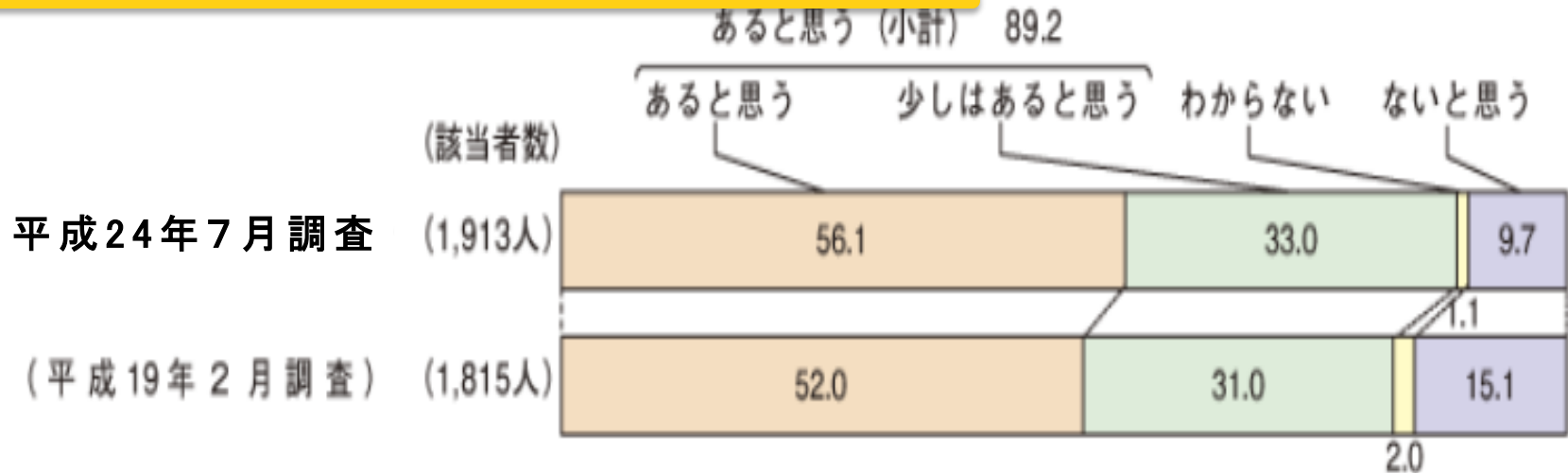
他の健常者にも  
言える事では  
ないのか？

# 「障がい者に対する差別や偏見について」

## Evidence-1

健全者は、障がい者に  
偏見を持っている。

する世論調査」(平成24年7月)



調査対象 全国20歳以上の日本国籍を有する者3,000人

有効回収数 1,913人(回収率63.8%)

調査期間 平成24年7月26日～8月5日(調査員による個別面接聴取法)

問題点解明<調査1>  
知的障がい者への偏見  
の有無

社会問題  
知的障がい者を  
とりまく現状

実験1  
健常者が持つ偏見を  
スポーツによって解消

政策提言  
教職課程に知的障がい者  
スポーツを導入

実験2  
知的障がい者に健常者が  
もたらす影響



---

健常者の偏見はスポーツを  
通して解消できるか？





# 実験1～健常者の変化～

## 実験方法

事前アンケート



コーチ体験  
約60分間



事後アンケート

同一質問紙で前後差を測定



# 実験1

## 健常者の偏見が解消されるか？



### 実験1-1

実施日時; 2014年10月1日  
実施場所; 中野特別支援学校  
知的障害者数; 11名  
コーチ数; 1名  
被験者数; 3名

### 実験1-2

実施日時; 2014年10月15日  
実施場所; 中野特別支援学校  
知的障害者数; 11名  
コーチ数; 1名  
被験者数; 3名

### 実験1-3

実施日時; 2014年10月22日  
実施場所; 鹿本中学校

### 実験1-4

実施日時; 2014年10月29日  
実施場所; 中野特別支援学校  
知的障害者数; 13名  
コーチ数; 2名  
被験者数; 3名

4回の実験で被験者14名



# 実験1

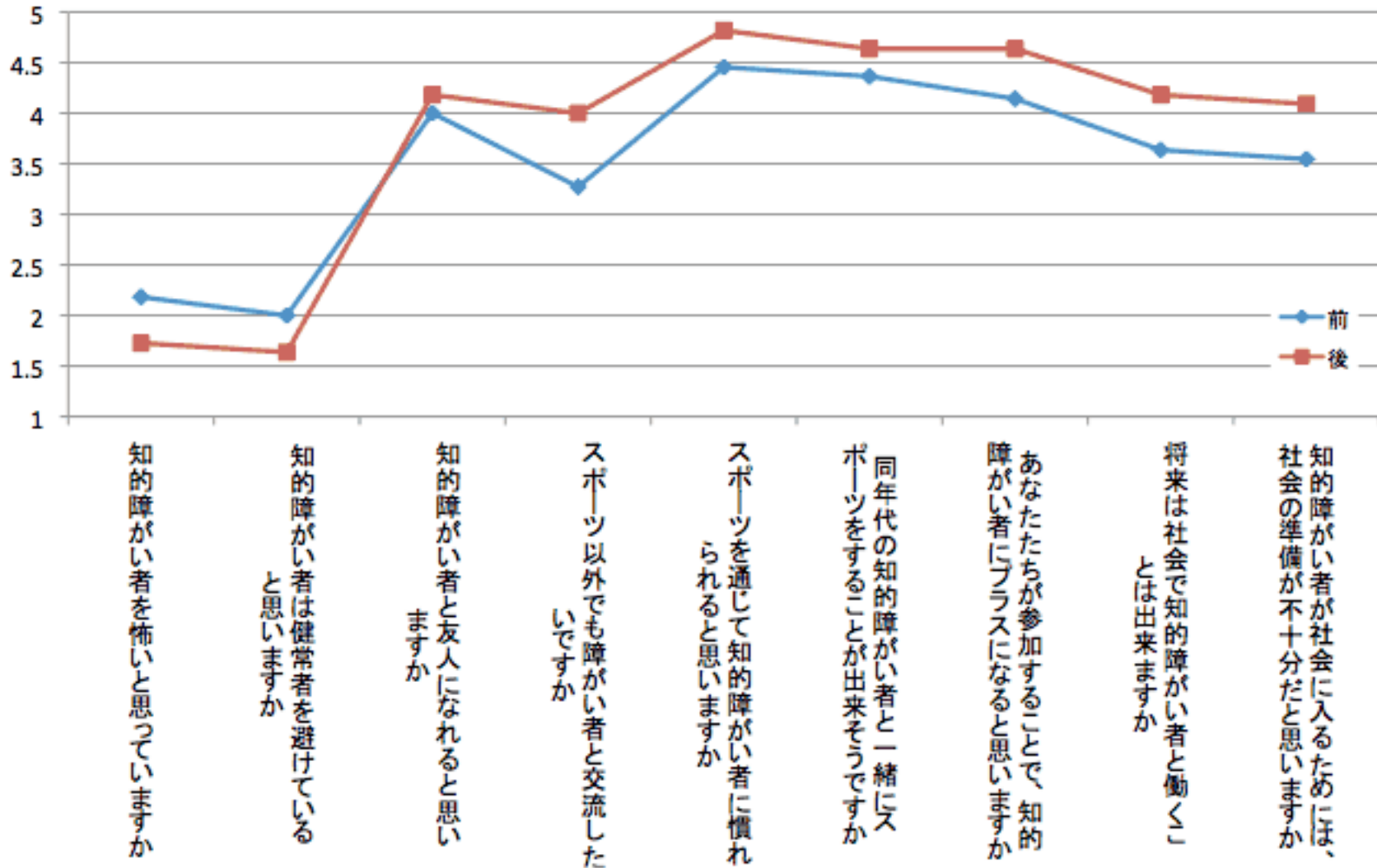
# < 実験概要 >

質問項目		リッカート尺度を使った 5段階質問				
知的障がい者を怖いと思っていますか	偏見因子	全くそう思わない	そう思わない	どちらでもない	そう思う	とてもそう思う
知的障がい者は健常者を避けていると思いますか						
知的障がい者と友人になれると思いますか	親近因子					
スポーツ以外でも障がい者と交流したいですか						
スポーツを通じて知的障がい者に慣れられると思いますか	スポーツ因子					
同年代の知的障がい者と一緒にスポーツをすることが出来そうですか						
将来は社会で知的障がい者と働くことは出来ますか	社会因子					
知的障がい者が社会に入るためには、社会の準備が不十分だと思いますか						
あなたたちが参加することで、知的障がい者にプラスになると思いますか						



# 実験1 結果<健常者の変化> 体験前後比較（平均値）

N=14



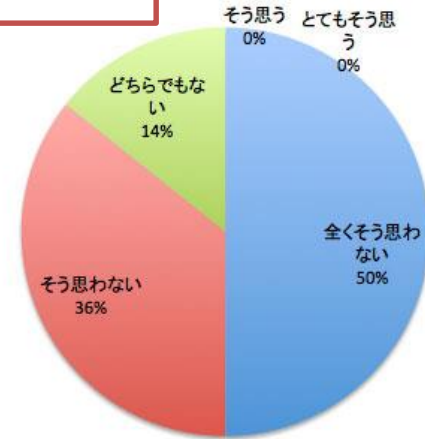
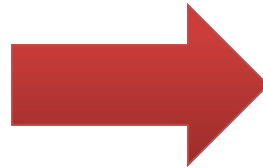
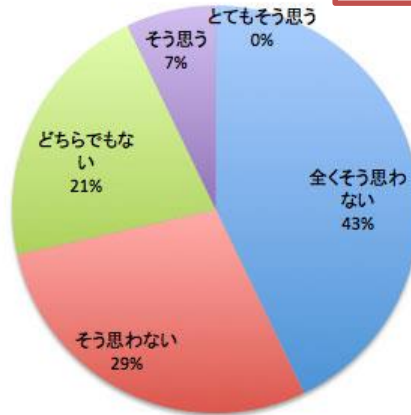


# 実験1 結果 健常者の変化 ＜偏見因子一前後比較＞

知的障がい者を怖いと思ってい

知的障がい者を怖いと思っ

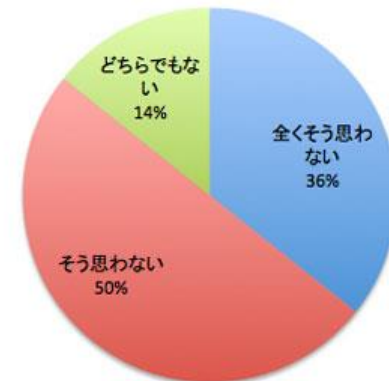
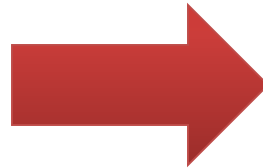
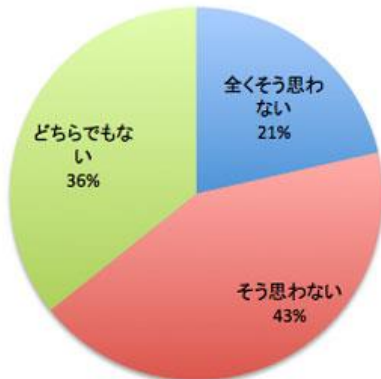
を怖いと思っ



知的障がい者は健常者を避

健常者を避けていると思

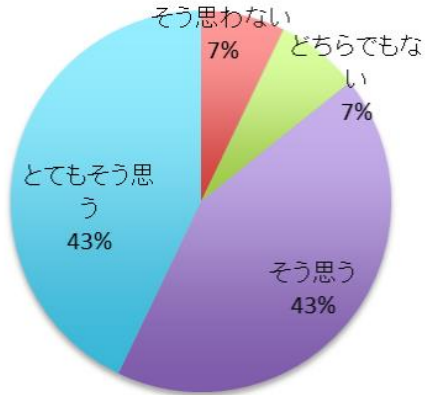
者は健常者を避けていると思



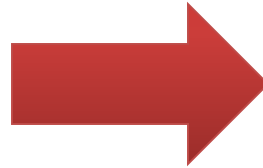


# 実験1 結果 健常者の変化 ＜親近因子一前後比較＞

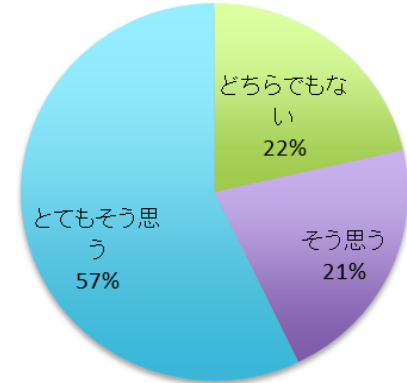
知的障がい者と友人にな  
りますか-前-



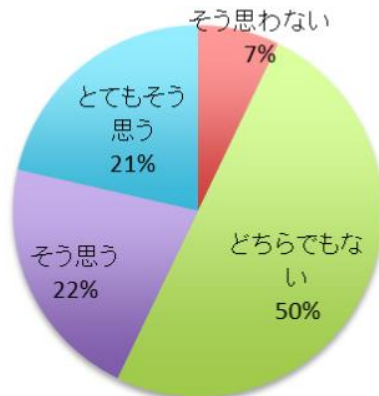
知的障がい者と友人になれる



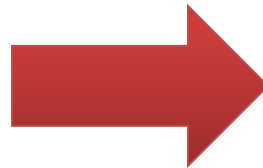
知的障がい者と友人になれると  
思いますか-後-



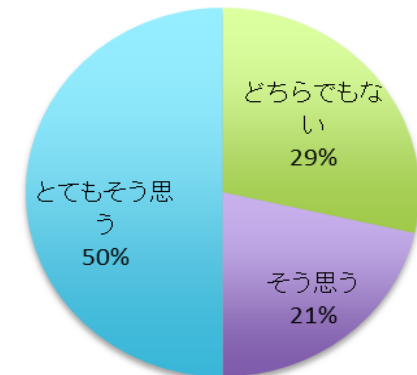
スポーツ以外でも障がい  
者と交流したいですか-前-



スポーツ以外でも交流したい



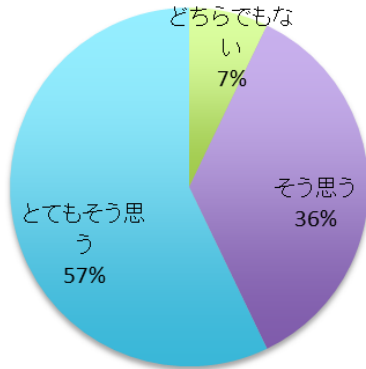
スポーツ以外でも障がい者と交流  
したいですか-後-



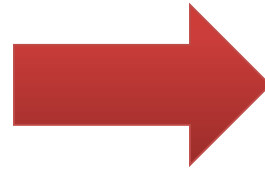


# 実験1 結果 健常者の変化 ＜スポーツ因子一前後比較＞

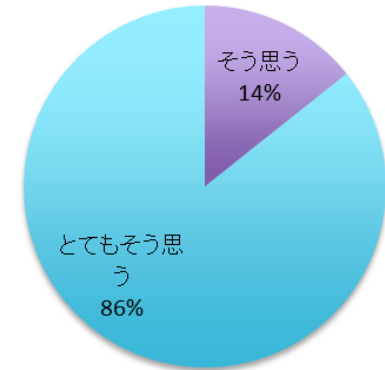
スポーツを通じて知的障がい者と慣れられると思いますか-前-



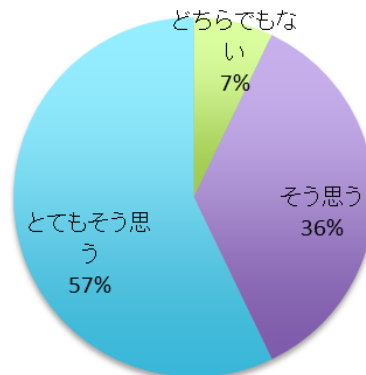
スポーツを通じて慣れられる



スポーツを通じて知的障がい者に慣れられると思いますか-後-



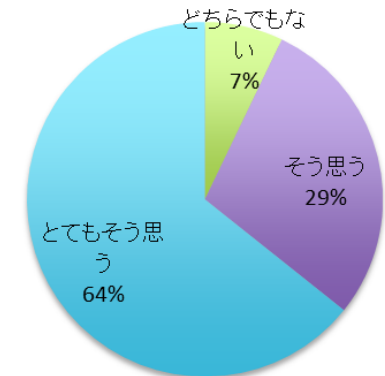
同年代の知的障がい者と一緒にスポーツをすることが出来そうですか-前-



一緒にスポーツが出来る

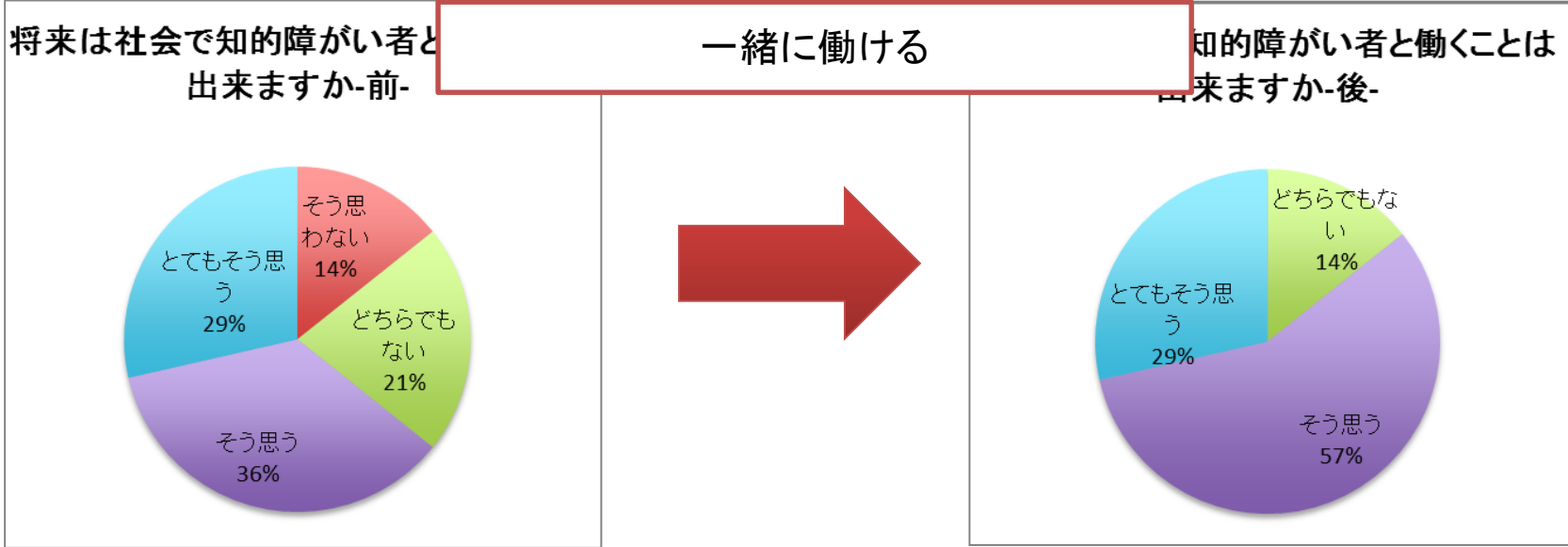


知的障がい者と一緒にスポーツをすることが出来そうですか-後-





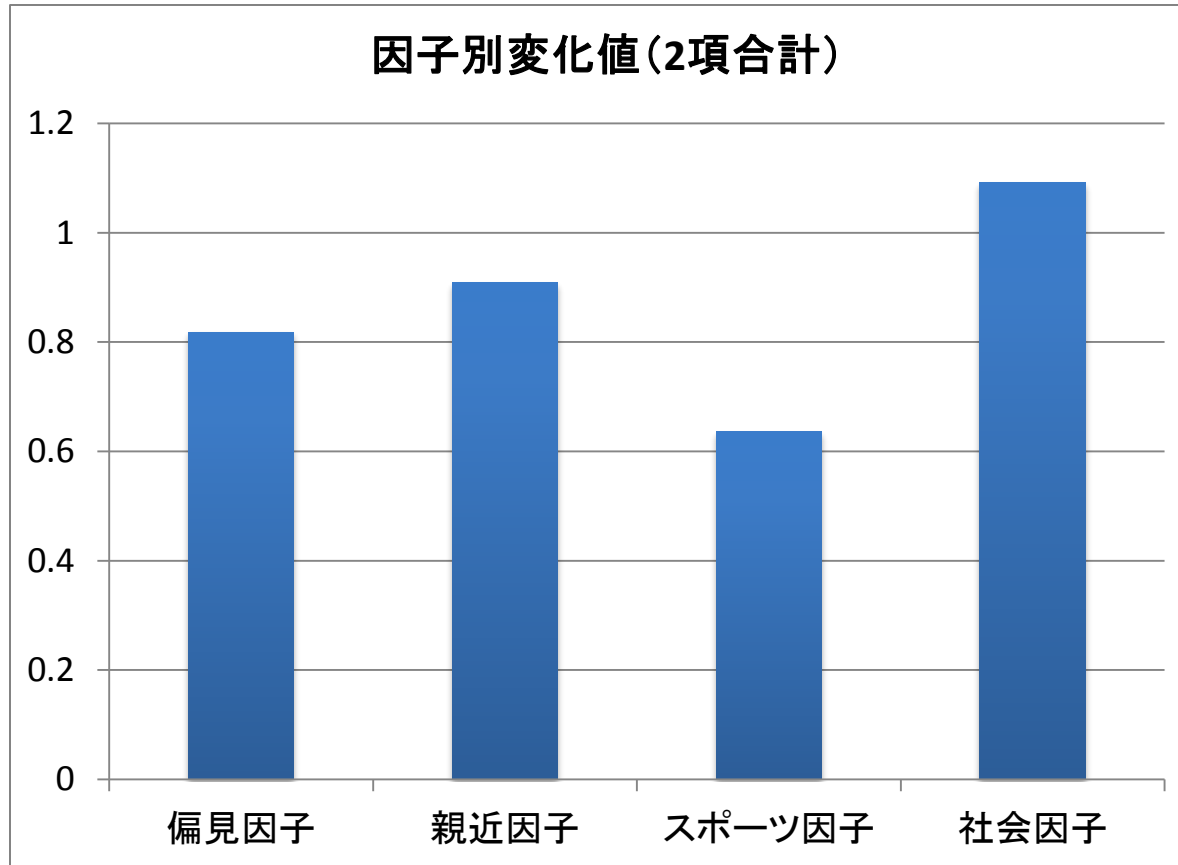
# 実験1 結果 健常者の変化 ＜社会因子一前後比較＞







# 実験1 結果 健常者の変化 ＜因子別変化値＞



全因子が向上

偏見因子**0.81**向上

親近因子**0.90**向上



# 考察

## 偏見因子

- 思い込み、誤解を解消

## 親近因

認識

### Evidence-2

スポーツ体験によって、  
知的障がい者への偏見は減少する

質が見え

## スポーツ

る

## 社会因子

- 社会での共存実現の可能性拡大

## 実験1

健常者が持つ偏見をスポーツによって解消

## 問題点解明<調査1>

知的障がい者への偏見の有無

## 社会問題

知的障がい者を取りまく現状

## 政策提言

教職課程に知的障がい者スポーツを導入

## 実験2

知的障がい者に健常者がもたらす影響



---

知的障がい者に  
実験による影響があったか？



## 実験2～知的障がい者の変化～



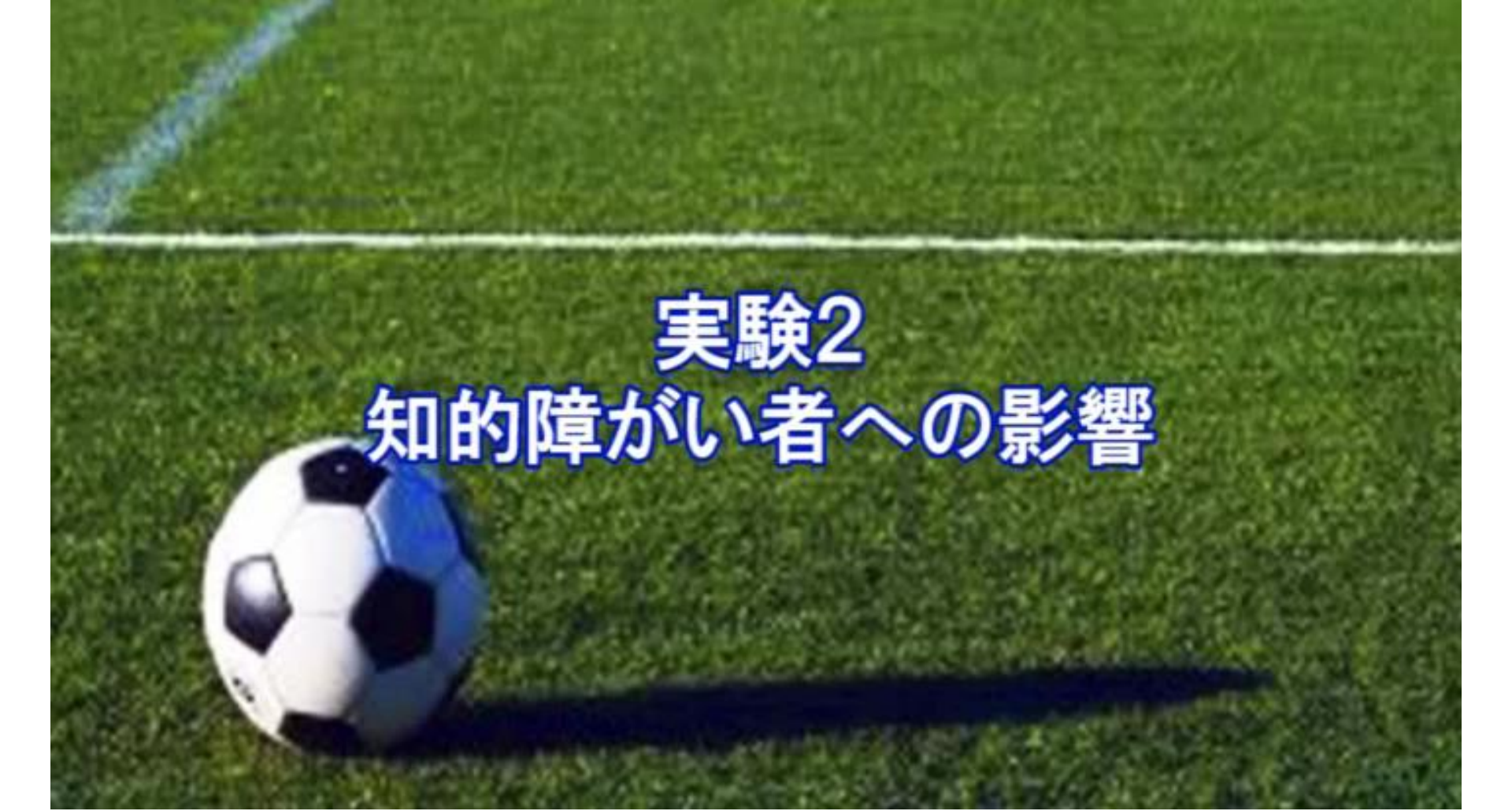
初対面コーチ

コーチ数増加

知的障がい者への影響

保護者アンケート





## 実験2 知的障がい者への影響

### 実験2-1

実施日時; 2014年10月1日  
実施場所; 中野特別支援学校  
知的障害者数; 11名  
コーチ数; 1名  
被験者数;

### 実験2-2

実施日時; 2014年10月15日  
実施場所; 中野特別支援学校  
知的障害者数; 11名

### 実験2-3

実施日時; 2014年10月22日  
実施場所; 鹿本中学校  
知的障害者数; 11名

### 実験2-4

実施日時; 2014年10月22日  
実施場所; 中野特別支援学校  
知的障害者数; 13名  
コーチ数; 2名  
被験者数;

4回の実験で  
同伴者16名にアンケート



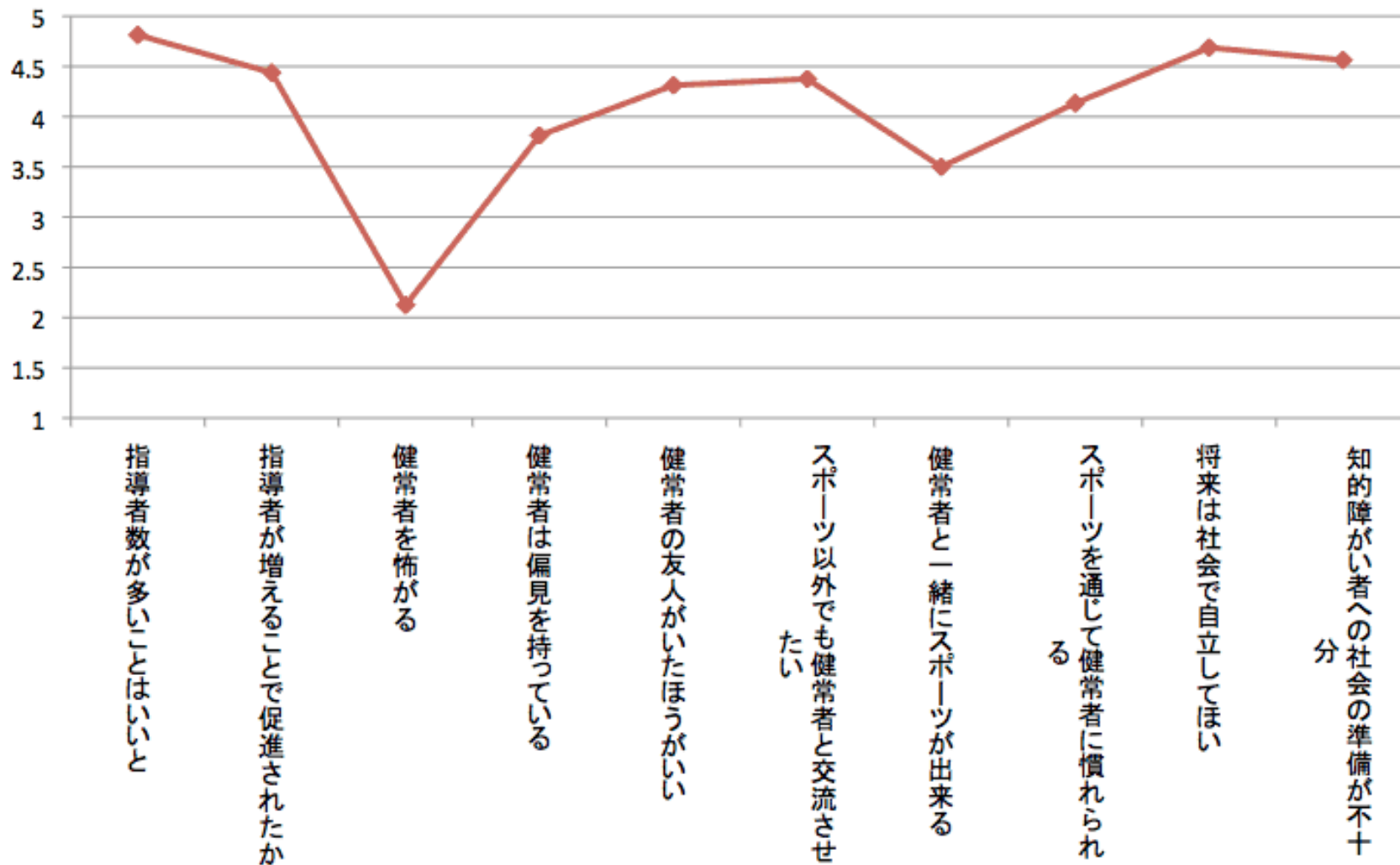
# 実験2 <実験概要>

質問項目		リッカート尺度を使った 5段階質問				
スポーツの指導者数が多いことはいいと思いますか	指導者数因子	全くそう思わない	そう思わない	どちらでもない	そう思う	とてもそう思う
スポーツをしていることの目的は、指導者が増えることで促進されましたか						
健常者を怖がることはありますか	偏見因子					
健常者は偏見を持っていると思いますか						
健常者の友人がいたほうがいいと思いますか	親近因子					
スポーツ以外にも健常者と交流させたいですか						
同年代の健常者と一緒にスポーツをすることが出来そうですか	スポーツ因子					
スポーツを通じて健常者に慣れられると思いますか						
将来は社会で自立してほしいですか	社会因子					
知的障がい者が社会に入るためには、社会の準備が不十分だと思いますか						

## 実験2 <実験結果一質問別平均>

質問別平均値<ID>

N=16



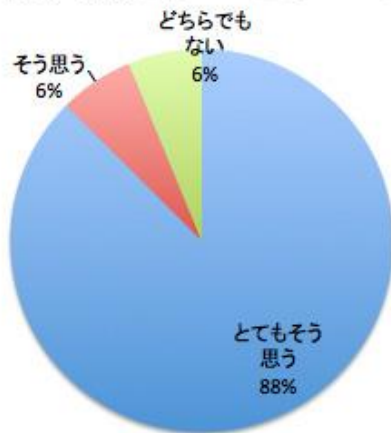


# 実験2 <実験結果一因子別1>

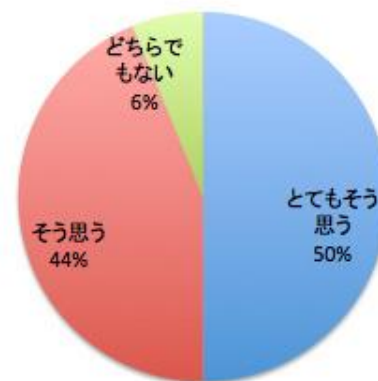
## 指導者数要因

指導者多い YES 94%  
 効果が促進 YES 94%

指導者数が多いことはいいと



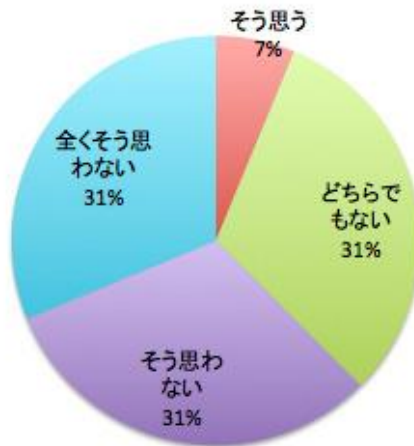
指導者が増えることでサッカーの効果が促進された



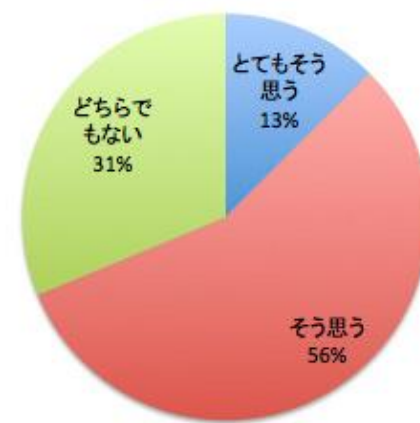
## 偏見要因

健常者を怖がる NO 62%  
 偏見がある YES 69%

健常者を怖がる



健常者は偏見を持っている

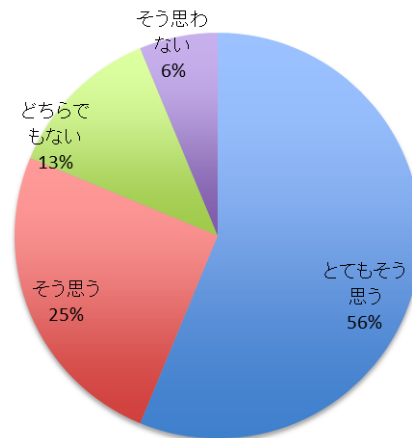


# 実験2 <実験結果一因子別2>

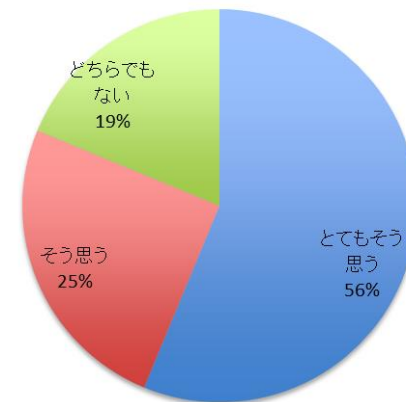
## 親近要因

健常者の友人 YES 81%  
健常者と交流 YES 81%

健常者の友人がいたほうが  
いい



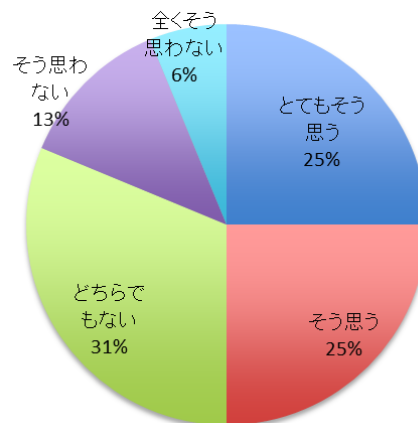
スポーツ以外でも健常者と交流  
させたい



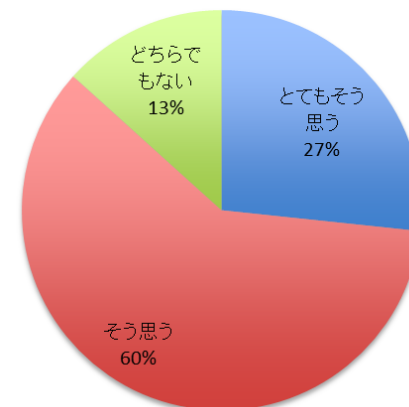
## スポーツ要因

健常者とスポーツ YES 50%  
健常者に慣れる YES 87%

同年代の健常者と一緒にス  
ポーツをすることが出来る



スポーツを通じて健常者に  
慣れられる



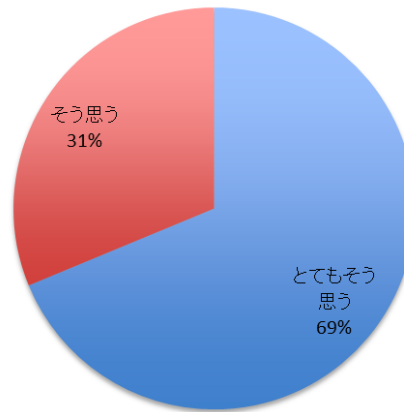


# 実験2 <実験結果一因子別2>

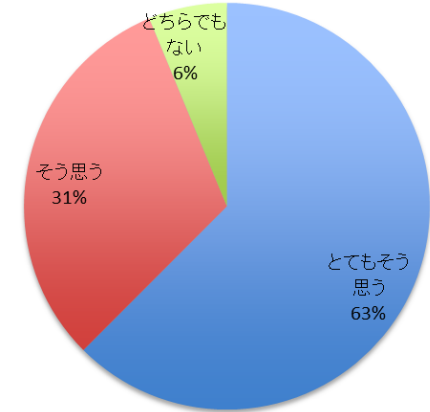
## 社会要因

社会で自立 YES 100%  
社会準備が不十分 YES 94%

将来は社会で自立して  
ほしい

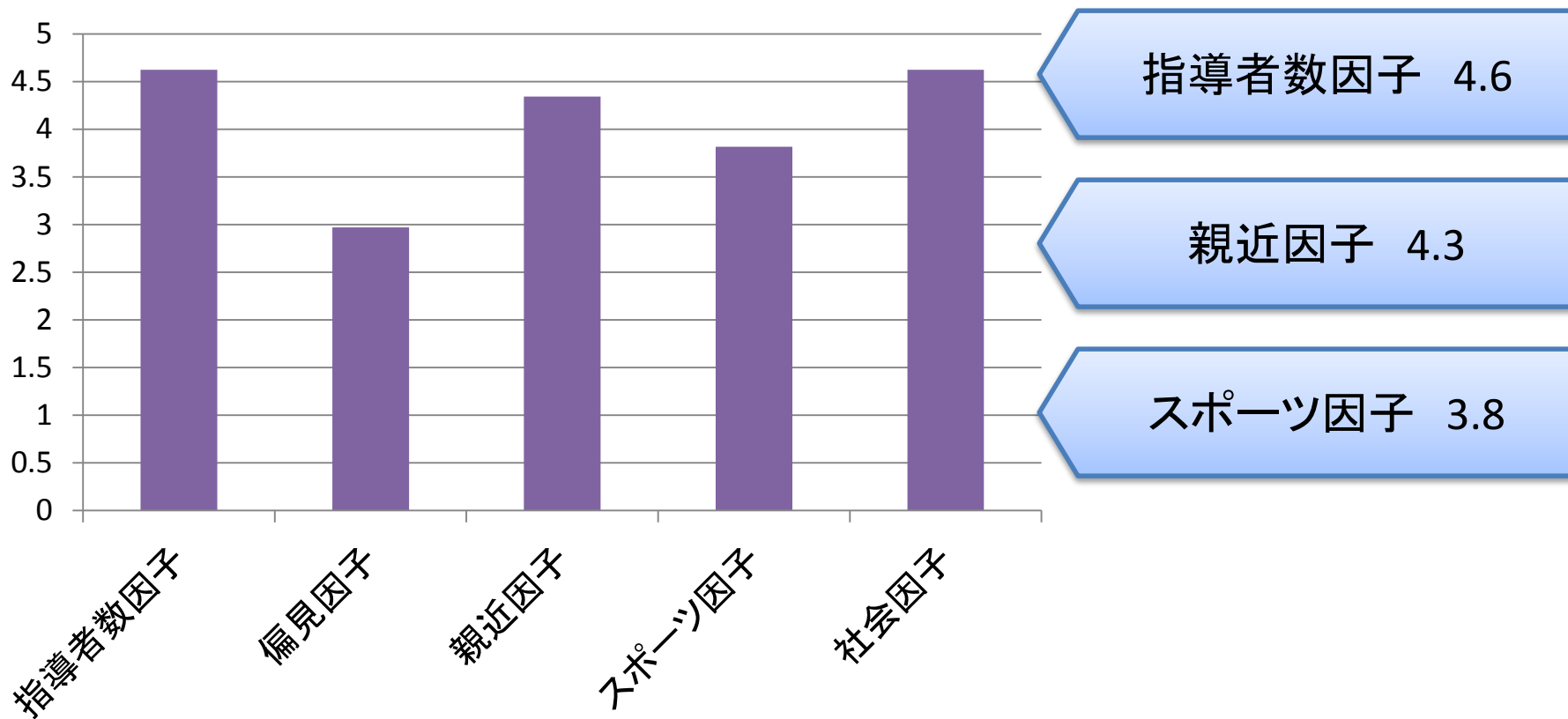


知的障がい者が社会に入るため  
には、社会の準備が不十分



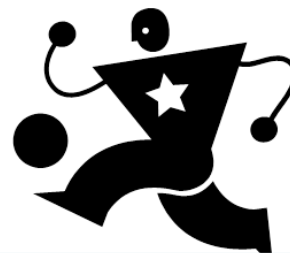
## 実験2 <実験結果一因子別2>

因子別解答傾向(平均値)





# 考察



## 指導者数因子

- コーチ増加により様々な対応を受けることができる

## 偏見因子

- 健常者に偏見はない事が分かる

## 親近感

**Evidence-3**  
知的障害者にとって、  
コーチ数の増加は有益である

## スポーツ因子

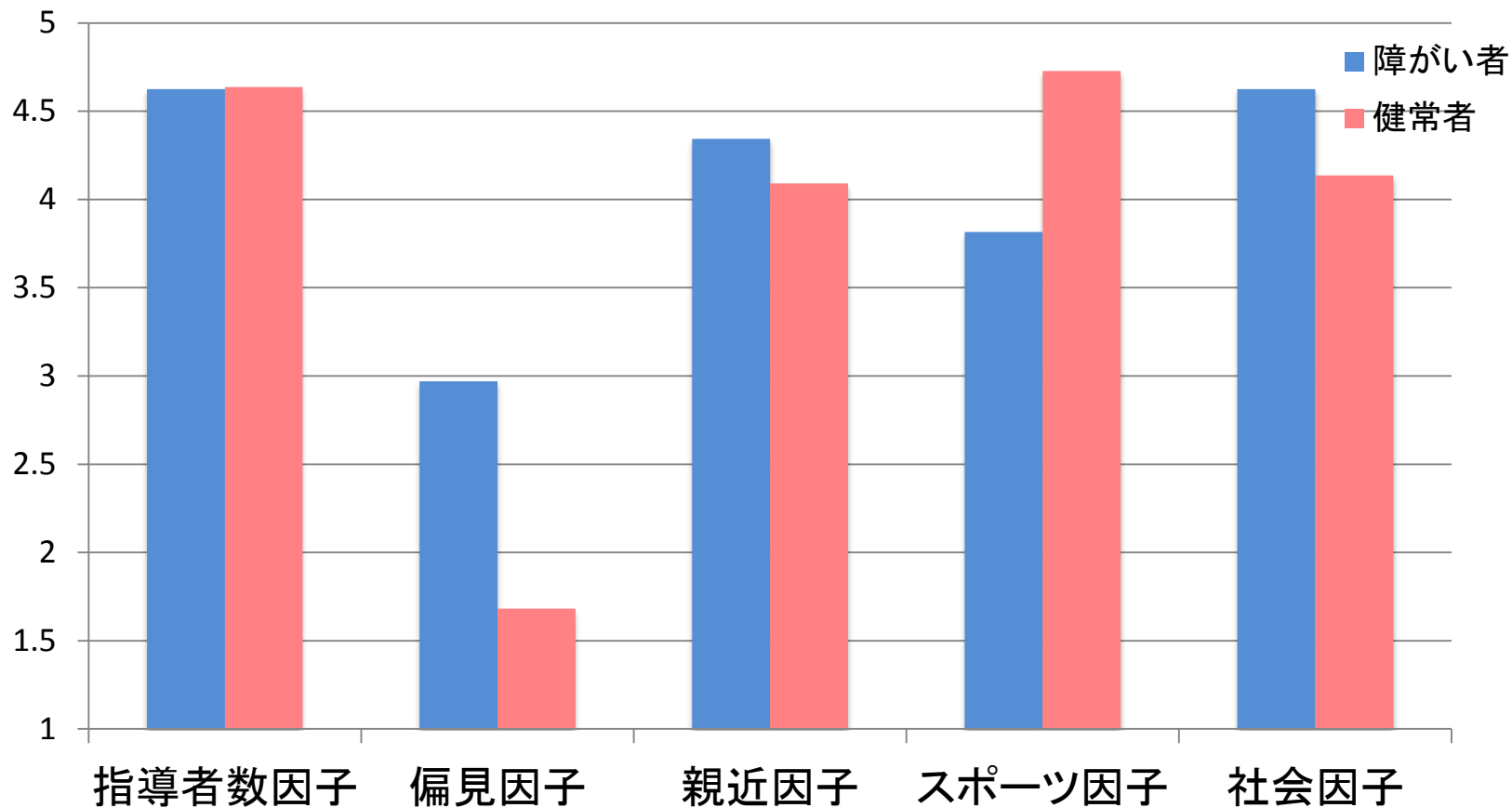
- スポーツを通して健常者に慣れる

## 社会因子

- 社会での共存可能性の拡大



# 実験1-2比較 <因子別>



# 健常者メリット

思い込み、誤解を  
解消

コミュニケーションをと

偏見は解消で  
きる

社会での共存可能性の  
拡大

# 障がい者メリット

コーチ増加により様々な  
対応を受けることができる

健常者に偏見はない事が  
分かる

デメリットは  
ない  
むしろプラス

社会での共存可能性の  
拡大

**相乗効果が期待できる**

## 実験2

知的障がい者に健常者がもたらす影響

## 実験1

健常者が持つ偏見をスポーツによって解消

## 政策提言

教職課程に知的障がい者スポーツを導入


## 問題点解明<調査1>

知的障がい者への偏見の有無

## 社会問題

知的障がい者をとりまく現状



A world map with a blue background and white landmasses, showing the outlines of continents and countries. The map is centered on the Atlantic Ocean.

# 世界の知的障がい者支援事例



キャンプヒル運動は、ルドルフ・シュタイナーが提唱したアントロポゾフィーに基づく社会活動。学習障がい、心理面における葛藤を持つ、成人、児童による共同生活。

1939年、スコットランドのオーストリア人小児科医 Karl König が、「全ての人間が持っている、身体特性から独立した健康な心理面を育む」という理念のもとに創設した。

2010年時点で、世界21カ国119カ所で行われているが、日本では行われていない。

---

教職過程「介護等の体験」で  
知的障がい者スポーツ体験を推奨

# なぜ教職課程に？

教員採用試験を受験する人は平成23年度約17万人



障がい者スポーツ体験



偏見のない教員が生まれる

体験した  
教員

障がい者スポーツ  
体験

自分の生徒へ  
障がい者の知識を  
教える・伝える

教員を  
目指す学生

偏見の  
少ない生徒

社会全体へ浸透していくサイクル

# 介護等体験者—知的障がい者スポーツ体験者比較



調査方法 1年以内に介護等体験をした人24名に対し実験1と同様のアンケートに答えてもらった



## 介護等の体験

義務教育諸学校の教育職員の免許状(教育職員免許状)の授与を受ける際に必要とされる介護などを基調とする体験活動のこと。

その目的は、人の心の痛みのわかる教員、各人の価値観の相違を認められる心を持った教員の実現に資することにある。

田中眞紀子議員らが提出した議員立法により、根拠法の法案が提出され、**平成10年4月1日**より教育職員免許状取得者に義務化された制度。



小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律  
(平成九年六月十八日法律第九十号)

第二条

小学校及び中学校の教諭の普通免許状の授与についての教育職員免許法第五条第一項の規定の適用については、当分の間、同項中「修得した者」とあるのは、「修得した者(十八歳に達した後、七日を下らない範囲内において文部科学省令で定める期間、特別支援学校又は社会福祉施設その他の施設で**文部科学大臣が厚生労働大臣と協議して定める**ものにおいて、**障害者**、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行った者に限る。)」とする。

文部科学大臣と  
厚生労働大臣が  
「知的障がい者施設で  
スポーツすることを推奨」  
すれば、即実現可能



# 結 論



社会問題  
知的障がい者を  
とりまく現状

ノーマライゼーション対策  
が無い

政策提言

教職過程に  
知的障がい者スポーツを導入

現行介護等体験より有益

問題点解明<調査1>  
知的障がい者への  
偏見の有無

知的障がい者への偏見

実験2

指導者数増加は有益

実験1

スポーツによって偏見が減少

# 参考文献

笹川スポーツ財団「政策提言」

[http://www.ssf.or.jp/research/proposal/social3\\_04\\_01.html](http://www.ssf.or.jp/research/proposal/social3_04_01.html)

内閣府「障害者白書」

<http://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/index-w.html>

内閣府 「障害者に関する世論調査」(平成24年7月)

[http://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/h25hakusho/gaiyou/h1\\_03.html](http://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/h25hakusho/gaiyou/h1_03.html)

NPO

法人トラッソス

<http://tra-tra.jp/school.html>

「障害児者の理解と教育の理解と教育・支援 特別支援教育/障害者支援のガイド」金子書房、2008年

**ご清聴ありがとうございました**